|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ユースケース名 | | インスタンスタイプを管理する |
| 目的（ゴール） | | クラウド管理者が仮想マシン作成時に利用可能なインスタンスタイプ（CPU数、メモリ容量、ディスクサイズなど）を柔軟に追加・編集・削除できるようにする。 |
| アクター | | クラウド管理者 |
| 開始条件（起動トリガー) | | クラウド管理者がインスタンスタイプの管理画面にアクセスし、管理操作を開始する。 |
| 事前条件 | | 管理者としてシステムにログインしていること。 |
| 事後条件 | | 指定されたインスタンスタイプが追加・更新・削除され、利用者が仮想マシン作成時に選択できる内容が反映される。 |
| 拡張点 | |  |
| 関連ユースケース | |  |
| イベントフロ｜ | メインフロー | 1.クラウド管理者が「インスタンスタイプ管理画面」にアクセスする。  2.新規追加」ボタンを押下する。  3.管理者が新しいタイプの名称、CPU数、メモリ容量、ディスクサイズ、説明などを入力する。  4.システムが入力内容の妥当性を確認し、保存処理を行う。  5.新しいインスタンスタイプがリストに追加され、利用者が仮想マシン作成時に選択できるようになる。 |
| 代替フロー | A1: 既存タイプの編集   1. 管理者が既存のインスタンスタイプを選択し、「編集」を実行する。 2. 必要な値（例：ディスク容量）を変更し、保存する。 3. システムが内容を更新し、反映される。   A2: インスタンスタイプの削除   1. 管理者が不要なインスタンスタイプを選択し、「削除」を実行する。 2. システムが削除処理を実行し、インスタンスタイプリストから除外される。 |
| 例外フロー |  |
| 備考 | | ・インスタンスタイプの命名ルールは、明確な区分（例：micro / small / medium / large）を推奨。  ・今後、GPU搭載インスタンスなどの特殊タイプも拡張可能。  ・UI上から容易に複製してカスタマイズできる機能があると便利。 |